

平成28年度環境測定分析統一精度管理中国・四国ブロック会議議事録
—中国・四国支部—

日時 平成28年7月26日(火) 13:30~16:00
会場 愛媛県薬剤師会館 3階大会議室
(愛媛県 松山市三番町7-6-9)

1 開会挨拶 愛媛県立衛生環境研究所長 四宮 博人

2 議 事

(1) 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 石関 延之

(2) 平成27年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

(一財)日本環境衛生センター環境科学部 次長 鹿島 勇治

(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

国立研究開発法人 産業技術総合研究所環境管理技術研究部門
計測技術研究グループ主任研究員 中里 哲也

国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部第三室 室長 小林 憲弘
元愛媛大学農学部 松田 宗明

(4) 質疑応答

(参) 参加者 (助) 助言者・有識者

・PM2.5抽出液試料(イオン成分)について(大気試料1)

(参) PM2.5のイオン成分分析の異常値判定に陽イオンと陰イオンでイオンバランスを確認する方法において、イオンバランスが崩れる要因について情報があればご教示いただきたい。

(助) イオンバランス値は抽出液中の代表的なイオン(陰イオン(Cl^- 、 NO_3^- 、 SO_4^{2-})、陽イオン(Na^+ 、 NH_4^+ 、 K^+ 、 Ca^{2+} 、 Mg^{2+}))で確認するので、他のイオンの濃度が高ければイオンバランスは崩れてしまうので、他のイオンが入っていないかを確認すること。測定した代表的なイオンについて、当量濃度の高いものを精査していくこと。

なお、最新版の大気中微小粒子状物質成分測定マニュアルでは、この記載はなくなっているので、異常値とイオンバランスの関係にあまりこだわらなくてよい。

・分析試料について

(参) 今後の精度管理の中で取扱う対象試料や物質について、説明のあった測定計画に示していない対象物質の変更や新たに加えられる可能性がある物質があればご提示いただきたい。

(助) 5年の計画の中で追跡調査をしないのであれば、行政的ニーズや社会的に関心の高い試料を過去の実施状況も踏まえて、環境分析測定検討会の中で決めている。均質な試料が作れる物という前提があるが、行政ニーズとしてアンケート等で要望を出していただければ検討会に諮っていく。

・分析装置の情報について

(参) なかなか新しい分析機器を更新できない状況にある。他の分析機関が使用している機器の種類や分析機器の更新状況等の情報が知りたい。

(助) 調査結果の解析の際に参考として使用機器の情報等を収集しているが、機器について特化した整理はしていないので提供はできない。行政の分析機関どうしでの情報交換や環境省環境調査研究所での研修等を機器選定の参考にしてはどうか。

・その他

(助) 精度管理調査の目的は一人一人の技量をあげて、精度を維持するところにあるので、特別なテクニックではなく、一般的な技術をしっかり維持するようにしてほしい。

(参) PM_{2.5}の炭素成分や無機成分の精度管理調査を要望する。

(参) pHやCODなど一般項目調査の精度管理調査の実施に関して、引き続き検討していただきたい。

4 閉会挨拶 愛媛県立衛生環境研究所 副所長 岡田 洋一